

1/254 注

被爆者遊説 in ヨーロッパ



地元（前右）の活動家と共同を誓い合った日本原水協代表
山田、前列右から3人目は山田さん、左から2
人目は齋藤さん、スウェーデン・イエーテボリ

原水協禁止日本協議会（日本原水協）が取り組んだ「ヒバクシャ遊説inヨーロッパ」。フィンランドとスウェーデンを訪ねた北歐コース（4〜12日）では、どこでも安倍政権の戦争法に反対する被爆者と日本国民のたたかいに大きな期待が寄せられました。（秋山豊）

フィンランド・スウェーデン

スウェーデン・イエーテボリの平和活動家が開いた交流会。国際平和ビュロー（IPB）のトマス・マグヌソン元会長は、日本で戦争法反対の運動が広がっていること

にふれて訴えました。「反核平和を求める日本のたたかいはの連続と兵同を強めていきたい」

広島で11歳のときに被爆した東友会の山田玲子副会長が、力強くうなずきます。

「日本で核兵器を廃絶し、安保法制（戦争法）を廃止するたたかいに力を尽くすことが、スウェーデンの運動に連帯する

ことになると信じています」

参加者から戦争法についての質問が相次いで出されるなか、日本原水協の齋藤紀（おさむ）代表理事は一戦争法は核兵器の輸送を禁止していません」と説明しました。マグヌソンさんは口元を押さえ、「今日のトップニュースだ」と言いつつ驚きます。

医師として平和活動に長く携わってきたカリン・カールソンさん（71）は、「戦争法に反対するあれだけ大きなたたかいをどうやってつくり上げたのですか」と興味津々に尋ねます。

深夜まで国会議事堂を包囲して戦争法反対の声を上げた人びとの写真を見せると、目を輝かせました。「本当にすばらしいですね。平和を求める日本のたたかいは私たちが

たたたかひに励みに

戦争法への批判相次ぐ 日本の運動に期待寄せる

の励みになります」
齋藤さんが手みやげに「おきあがりこほし」を手渡すと、カリンさんは「日本のたたかひの不屈さを表しているようですね」とうれしそうに言います。
イエーテボリの平和活動家は、スウェーデンが、北大西洋条約機構（NATO）のホスト国になることに反対する署名運動に取り組んでいます。
スウェーデンでは野党を中心に、NATOホスト国化の動きが強まっています。NATOは欧米28カ国でつくる軍事同盟で、加盟国の軍隊や核兵器などの配備を求められる危険があります。
南米チリ出身のクラウディオ・コネルさん（46）も、NATOホスト国反対の活動に参加しています。ピノチエト軍事独裁政権（1973〜90年）時代に、両親と一緒にチリを追われ、スウェーデンに移り住みました。それだけに、憲法を破壊する安倍首相の独裁政が許せません。「日本の国民が大規模なデモをおこなって反対の意思を示したのに、戦争法を強行した安倍首相はファシストですよ」
日本の大学に語学留学していたころ、広島の平和記念資料館、長崎の原爆資料館にも足を運んだというマキネンさん。「武器を手にして戦争することを否定した素晴らしい日本の憲法を変えないでほしい」と語りました。
山田さんは、静かな声で答えました。「原爆の被害を受けて、二度と戦争しないと決めたのが日本の憲法です。戦争への道を進むことは許されたいことでは、戦争と核兵器をなくすため、草の根から世論を広げましょう。みなさんが平和を求める活動に参加することを心から願っています」

「日本政府の軍国主義に

解釈改憲に疑問
国際平和を揺るがす安倍政権への批判は、フィンランドでも相次ぎました。徴兵を拒否した青年たちは「なぜ、強権的に憲法の解釈を変えようとする人が内閣にいるのですか」「憲法は変えられてしまったのですか」